

長野県革新懇ニュース

2015年11月号
(発行日11月10日)
年会費5000円(送料込)
振替 0510-3-15971

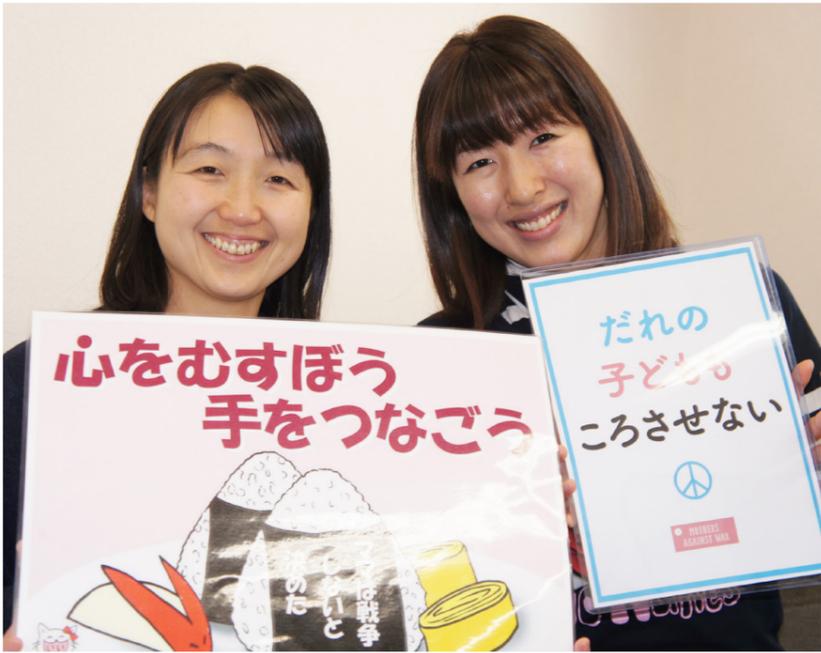
197

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: takamura.hiroshi.nagano-h@educas.jp

革新懇の3つの共同目標

- ①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

右 今井紀子さん、実行委員長、81年中野市生まれ、1男1女。
左 高橋夏美さん、事務局長、76年長野市生まれ、2男1女。



やらずにはいられない 後で後悔したくないから!

高橋夏美さん、今井紀子さん

(ママは戦争しないときめた実行委員会)

危険な動きに不安な毎日

Q 今回の安保法制をめぐってはママたちの行動が大変注目されましたが、その経緯は?

今井 最初はテレビやフェイスブック(FB)などで動きについては情報を得ていました。そんな中で、とうとうここまで来ちゃったのかということ、これはヤバイなと思っていました。特に安倍さんが4月にアメリカに行つて米国会議で安保法制を夏ごろまでに成立させると公約したあたりから、注目度が一気に高まつて、私の中でも大変なことになるとかという思いが強くなりました。国会中継などを見たり、ニュースやFBで情報を集めたりしましたが、安倍さんはきちんと説明していないというより、質問にまともに答えようとしない。そんな中で、危機感がいつそうつよくなつていきました。

高橋 私は秘密保護法の頃から大変なことになるとかいう思いはありましたが、去年7月の閣議決定で一気に危機感を強めました。ただ、様々な法律を変えなければならぬという話もあったので、そんなに簡単に法律ができるとは思っていませんでした。ところが、出てきた法案は二つ。こんなに急に通してしまうのかという、焦りも出てきました。7月15日に戦争法案が衆議院で強行採決されてからは、このまま行っちゃうのかという不安の毎日でした。

渋谷のママジャックがきっかけ

Q 実行委員会を立ち上げたきっかけは何だったんですか?

今井 渋谷で行われたママジャックがきっかけですね。「安保関連法案に反対するママの会」が7月5日に結成され、記者会見を行いました。長野でも何かやらないかという思いが強くなりました。

高橋 長野ではすでにレックドアクションとか憲法かえるのやだネットが活発に活動していたので、そうした皆さんの支えがあれば、長野でもできるかもしれない、やってみようと思えました。そこで、7月30日に初めて実行委員会をやつて、9月5日に最初の集会をするのを決まりました。ただ、渋谷のように大勢の集会をもつことはむずかしいから、たとえ二人でも三人でもいいから、とにかく今の思いを街頭に出てアピールしよう、でも、やる以上はできる限りのことはしようというので、チラシを8000枚ほどつくつて、保育園にお願いしてチラシを置かせてもらったり、新聞に折り込んだり、生協の班会などで配ったりしました。ダメもとで週刊長野などのローカル新聞にも掲載をお願いしたところ、掲載してくれました。もちろんSNSを通じて繋がりがあるママたちにも知らせました。

今井 初めての集会は、本当に大変な反響で驚きました。

た。ほとんどすべての新聞社や放送局が取材に来てくれました。まさかあんなに注目されるなんて思ってもいませんでした。私たちとしては、できるだけ多くのママに集まってほしかったので、集会の中身は政治的なんですが、ネイミングは親しみやすいようにと「マザーズ・アピール・ウォーク」にしました。マスクの取材にも驚いたんですけど、もつと嬉しかったのは、参加者の顔ぶれがほとんど知らない人たちだったことです。それだけ不安に思っている人が沢山いるんだというので、背中を押される感じでした。カンパもたくさん寄せてもらい、中には4000円分の図書カードをくれた方もいました。私たちの行動の資金は全部自前なので、自分たちでいろいろグッズをつくつたりして費用に充てているので、本当に嬉しかったですね。

高橋 アピール・ウォークの反響に元気をもらって9月の15日から18日まで長野市のトイ・ゴ前広場で続けてスタンディングしました。このスタンディングではいろいろなママたちが自分の思いをアピールしましたが、初めての参加者もいて、とても初々しいというか、新鮮でした。あるベテランの方が言っていました、信号待ちの人たちが聞いたママたちの話を聞いていて、思わず拍手をしていました。その方は「俺たちもよく街頭で演説するけど、そんなことまったくないね! 訴える力が違う

んだな」としみみ語っていました。そんな話を聞くと、自分たちのやっていることは結構すごいことなんだと、励まされます。今井 スタンディングの他にも、16日には国会ツアーに参加して、戦争やだネットの人たちと一緒に署名をもって県選出議員のところへ要請にも行きました。



大きな注目を集めた9月8日のマザーズ・アピール・ウォーク参加者

大変だけれど、何かしなくてはという思い

Q 大きな反響で励まされている反面、いろんな苦労もあると思いませんか?

今井 実は、ママ友の間で

はなかなか政治的な話ではないですね。何度か話題にしたことはあるんですが、反応なしでスルーされちゃうわけですね。みんな家事や育児、仕事ももっているんで、忙しくてなかなか目が向かないという面もあります。そういう現実はあるけれど、それはそれとして自分の思いや戦争法案のことなどを記事としてアップすることはできるので、諦めないで発信はしています。そうするとやっぱり知らないところで見ている人がいて、「頑張っているんだね! 記事みたよ!」

【2面に続く】